

#### 2019年度数理物質科学研究科 研究科修了生によるオムニバス講座

### 結晶エ学、スピントロニクスから生体観察へ ~半歩ずつ異分野へ~

#### 東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 西沢 望

2003年 筑波大学数理物質科学研究科 入学 2008年 修了

Tokyo Institute of Technology Institute of Innovative Research

# 1. はじめに

#### 西沢 望(にしざわ のぞみ):41歳

国立大学法人 東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 助教





2/52

# 1. Outline of my research

FY	
2003   2008	<ul> <li>筑波大学大学院 数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 瀧田・黒田研究室(喜多研究室) → 黒田研究室 2008年3月 工学博士号 取得</li> <li>[研究内容]</li> <li>(Zn,Cr)Telこおける荷電不純物ドーピングによる強磁性特性の制御</li> </ul>
2009   2010	独立行政法人 物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点(MANA) ポスドク研究員 [研究内容] 超伝導体/強磁性半導体 接合を用いたスピン偏極電流検出デバイスの開発
2010   2019 現在	国立大学法人 東京工業大学 像情報工学研究所 研究員 (2010-2012) 特任助教 (2013-) 未来産業技術研究所 助教 (2018-) [研究内容] • 円偏光発光デバイスの多機能化と室温動作実現 • 円偏光によるがん診断技術の構築

# 1. Outline of my research





#### 

- 3.【東工大】
  - 円偏光発光デバイスの多機能化と 室温動作実現
- 4.【現在】
  - 円偏光がん診断ツールの開発

2-1 強磁性半導体



6/52

# 2-1強磁性の制御



# 2-1 Cr distribution



# 2-1 Summary



#### Next step (Tsukuba $\rightarrow$ NIMS)



10/52

【技術】

- やったことのない、汎用性の高い技術が 身につくところに行こう
- その次に行った時にいろいろできる技術
- → 微細加工技術、顕微鏡技術など

# 2-2 超伝導体へのスピン注入



11/52

・ 逆近接効果の実験的検出

### 2-2 Previous study



12/52

# 2-2 Sample Structure



#### 2-2 Differential Conductance



# Next step (NIMS $\rightarrow$ TITECH)

- 【身につけた技術】
- ・ 微細加工技術(電子線・光リソグラフィ)
- スパッタによる金属製膜
- 極低温実験(希釈冷凍機)
- III-V族系の磁性半導体の成長法 (磁性半導体の本家 東エ大 宗片研にて)

# 【次の分野】

- 微細加工をSpintronicsで活かす
   → 電気伝導の人たちが皆やってる
- ・ 電気ではないデバイス → 光デバイス!
   (そういえば東エ大 宗片研の他のグループがやってた)



# 2-3.Spin-polarized light emitting diode<sup>16/52</sup>



# 2-3. Spin-LED as a CPL source



- ③ 小型化、集積化可能な素子
- ◎ 外部磁場もしくは他の励起光源を必要とする
- ⊗ 低温でも円偏光度が低い
- ◎ 高速で円偏光の極性を切り替え、任意の円偏光度を得ることができる

# 2-3. Spin-LED for applications



1. Operation without applying external magnetic field

2. High polarization at room temperature

Strong externa

- $\rightarrow$  High spin-injection efficiency
- $\rightarrow$  Crystalline tunnel barrier



- 1. 磁場や電場などの外部 印加の必要ない素子
- 高い円偏光度で発光す る素子
- 3. 電気的に円偏光の極 性を切り替えることがで きる素子
- → 室温動作する素子

3. Helicity selectivity of CPL emission



Н

# 苦悩の3年間

2010年から2012年の3年余り、全く結果が出なかった

• MBEで成長したLEDがそもそも光らない

→ 長年、学生がMBEを整備、品質が劣化
 → MBEの基本的な整備から

Schottky barrierのスピン偏極率が低い

MnSb
n <sup>+</sup> -GaAs
<i>n</i> -Al <sub>0.1</sub> Ga <sub>0.9</sub> As
Al <sub>0.1</sub> Ga <sub>0.9</sub> As
GaAs
Al <sub>0.2</sub> Ga <sub>0.8</sub> As
<i>p</i> -Al <sub>0.2</sub> Ga <sub>0.8</sub> As
<i>p</i> -GaAs buf.
<i>p</i> -GaAs sub. (001)

- →トンネル伝導させる必要がある
- → AIOxトンネルバリアをMBEで作ろう

# **Sample Preparation**



# Oxide film on GaAs

21/52 N. Nishizawa *et al.*, JAP **114**, 033507 (2013). N. Yokota *et al.*, JAP **118**, 163905 (2015).

1. High density of interface state  $(D_{it})$ 

2. High temperature oxidation method

→ Not available for III-V SCs

Group-V elements (As or P) have high vapor pressures

To obtain high quality oxide layer on GaAs

- 1. Reduce the density of interface state
  - $\rightarrow$  Less dangling bonds and defects at the interface
  - $\rightarrow$  Epitaxial growth of thin <u>aluminum layer</u>  $\rightarrow$  Small lattice mismatch with GaAs
- 2. Low temperature oxidation process
  - →Post-oxidation by exposed AI epilayer at RT

Epitaxial growth of Al Aluminum Aluminum As stabilized surface on GaAs

Decrease the dangling bonds by covered with Aluminum mono-layer Suppression of migration and replacement by not giving an extra kinetic energy to oxygen ions

Dxygen

[typical  $D_{it}$  values] AlO<sub>x</sub>/GaAs : ~10<sup>13</sup> cm<sup>-2</sup>V<sup>-1</sup> SiO<sub>2</sub>/Si : ~10<sup>11</sup> cm<sup>-2</sup>V<sup>-1</sup>

# Crystalline AIO<sub>x</sub>

22/52 N. Nishizawa *et al.*, JAP **114**, 033507 (2013). N. Yokota *et al.*, JAP **118**, 163905 (2015).

#### **Process** $\rightarrow$ Crystalline AlO<sub>x</sub> layer

- Al epitaxial growth (5.5Å)
   @RT with low As back-pressure Thickness of natural oxidation layer on pure Al crystal → 4~6 Å
- ii. Oxidization for 10h. (→ 7.0Å) dry air of 1 atm. @RT
- iii. Al deposition (2.3Å)
- iv. Oxidization 10h. ( $\rightarrow$  3.0Å)

Cross-s	sectiona	l image		Fe
10		a second second	A	Ох
		n-A	I <sub>01</sub> Ga <sub>0</sub>	<sub>g</sub> As





# Crystalline AIO<sub>x</sub>

23/52 N. Nishizawa *et al.*, JAP **114**, 033507 (2013). N. Yokota *et al.*, JAP **118**, 163905 (2015).



# **Toward RT operation**



#### **Optical set-up**

N. Nishizawa et al., PNAS 114, 1783 (2017).



25/52

### EL spectra

N. Nishizawa et al., PNAS 114, 1783 (2017).



# Experimental summary

N. Nishizawa *et al*., PNAS **114**, 1783 (2017).



27/52



Anti-parallel magnetization configuration at remnant state

### Electrical helicity switching N.

29/52 N. Nishizawa *et al.*, APL **104**, 111102 (2014). N. Nishizawa *et al.*, APEX **11**, 053003 (2018).



#### **Polarization blending**

**30/52** N. Nishizawa *et al.*, APL **104**, 111102 (2014). N. Nishizawa *et al.*, APEX **11**, 053003 (2018).



By simply tuning the currents ratio of two electrodes, value of circular polarization can be changed continuously between negative and positive helicities

 $\rightarrow$  Arbitrary polarization emission

#### Next step



【次は自分独自の分野の形成へ】 デバイス拡張 or 応用?

- もっと人に知ってもらうには?
- → 既存の分野へ進むのではなく 新しい分野を作ろう



### 2-4. CPL applications



# 2-4. CPL on Biology



# 2-4. Spin-LEDs for Cancer diagnosis <sup>34/52</sup>



#### 生体内における新たな癌診断技術 (非染色、非侵襲、その場観察)





博士

博士号



学科教習



修士

博士とは、研究する人 研究とは、この世の誰も見つけていないことをみつける、 もしくは、この世にないものをあらしめること

博士号とは優秀な研究成果に与えられる褒賞ではなく、 研究を遂行する能力を身につけたことを表す資格

博士課程は、専攻分野について、研究者として自立し て研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業 務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基 礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 H01 文部科学省 大学院設置基準



35/52

# 博士号とは

修士号=与えられたテーマの下で研究ができる 博士号=テーマ自体を自分で探して研究を行える

日本の社会または産業の標準的な考え方は、「欧米の真似事を改良・改善していく」

日本では2000年代までは 修士号(仮免)で1人前。 素質次第で会社では研究職へ就けた。

しかし近年、外国資本の参入により 事情は一転。

修士号の研究者は軽んじられてしまう現状 が見えてきている。 (外資との合併企業では非常に肩身が狭い)

- ・ 今、日本の企業も変わりつつある
- H15 H29 ・修士の就職率: 64.5% → 78.2% 博士の就職率: 54.4% → 67.7%





# 博士号とは

博士号取得者に求められるカ

- 1. 未解決の問題の中から限られた期間内で解決可能な テーマを設定する力
- 2. 当然と思われていることや画期的な成果を疑ってみる 批判的思考力。
- 3. 設定したテーマをどんな手法、プロセスで探究し、 解決に導くかを自ら計画・実践するプロジェクトマネジメント能力。
- 4. 研究成果を論文にまとめるための論理的思考力。
- 5. 研究成果を学会という世界の専門家の集まる場で発表する プレゼンテーション能力。
- 6. 学会でのフィードバックを受けて、より高度な研究へと発展させていく、コミュニケーションカ。
- 7. 専門という軸足をつくることにより、判断や振り返りなどが効率 的にできるようになる力

自分の専門

#### 軸足を中心に踏み込む



#### ご清聴ありがとうございました